

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年2月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691500203
法人名	アルゴライン株式会社
事業所名	ケアホーム田海園
所在地	鹿児島県薩摩川内市城上町9750番地7 (電話) 0996-21-9338
自己評価作成日	令和6年 1月2日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年2月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○利用者様一人ひとりの個性や行動等をそれぞれ把握し、安心できる環境づくりと支援に取り組んでいます。
○利用者様の体調不良や普段と違う状態の場合は、利用者様それぞれの主治医に連絡・相談するなど病気の早期発見に努め、必要時には主治医の指示やご家族様のご希望に沿っての病院受診を支援します。
○感染症対策の基本である手洗いや手指消毒、空気清浄機等の使用で感染症対策が徹底できるように努力しています。
○「つなぐ・つながる・たすけあう」の理念で、ご家族と地域の皆様からも信頼できる施設を目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「身体拘束廃止に関する指針と委員会の設置」を整備し、定期的に研修を実施するほか、3か月毎に身体拘束廃止委員会を開催している。委員会では身体拘束の有無や拘束の内容、拘束による弊害について等を事例を踏まえて話し合いを行い、拘束のない暮らしの支援につなげている。

玄関の施錠は行わず、また、センサーも使用せず見守りを徹底させており、利用者が不意に外出しそうな仕草に気付いた時は見守りや声掛けを行い、外出する場合は職員も付き添うなど行動制限を行わない支援に努めている。また「ちょっと待つて」等、言葉による拘束については、忙しい時に言ってしまうことがあるため、「私も一緒に行きます」等、わかりやすい言葉を選び伝えられるよう、職員間で話し合いケアにつなげられるよう努めている。

本人の思いや要望を入居時のアセスメントにおいて詳しく聞き取るほか、日常会話や声を掛けた時の表情等から汲み取るようにしている。また、日常的に本人のしたいこと、したくないこと等を含めた気付きを連絡ノートや日誌に記載して目を通し、重要事項については申し送り時や職員会議でも話し合うなど利用者の思いに寄り添えるよう情報共有を図っている。

家族にはラインを通じて日常の様子や状態を報告するよう努めるとともに、家族からも意見や要望についてを汲み取る体制ができており、出された意見や提案を今後の支援や運営に反映させている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念である「つなぐ・つながる・たすけあう」を管理者と職員は共有し、地域の皆様から頼られる施設を目指している。	利用者や家族、地域との良好な関係性を考慮した上で作り上げた「つなぐ・つながる・たすけあう」の理念を玄関と廊下の目に付く場所に掲示することで意識付を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策のため以前のような交流ができなかったが、今年からは中学校の職場体験の受け入れも予定するなど交流を再開している。	地域の情報は運営推進会議に参加する自治会長より聞くことができている。中学生の職場体験学習やサマーボランティアの受け入れについては、次年度の感染状況を観察して対応していく予定としている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	感染症対策のため中止していたボランティアや職場体験の受け入れを再開し、認知症の理解を広めることによって地域貢献ができるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での運営推進会議を再開し、約2ヵ月に1回のペースで出席された自治会長や民生委員の方々の意見を活かすようにしている。原子力災害について地域での取り組み方も参考までにお聞きしている。	コロナ禍以降は書面による会議開催としていたが、令和5年2月以降は、家族や民生委員、自治会長や行政職員等、参集による会議を実施している。会議ではヒヤリハットや活動報告、意見交換を行うほか、外部評価の報告も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員は運営推進会議にも出席してもらっており、相談ごとが発生した場合は高齢・介護福祉課や保護課担当者等に連絡をとるなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政には介護保険に関する書類提出や運営に関しての相談事がある時等に出向いて助言をもらっている。また、事故報告書提出の際は記入の仕方を丁寧に助言してもらうなど良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施設内の施錠はせず、職員の見守りの中で利用者は生活している。施設内研修もあり、3ヶ月に1回の身体拘束廃止委員会でも事例検討して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束廃止に関する指針と委員会の設置」を整備し、3か月毎に身体拘束廃止委員会を開催している。委員会では身体拘束や拘束による弊害について、事例を踏まえて話し合い拘束のない暮らしの支援につなげている。玄関は施錠せず、見守りにより自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内や職員会議で学ぶ機会があり、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業や制度を実際に活用されている利用者がおらず、リアルな事例を基にした研修を行いにくいところであるが、制度の理解についての研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の施設見学や自宅等訪問で家族の疑問点等について尋ねられたことについても説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や電話で家族の意見や希望を聞き、可能な限り反映させている。	家族の意見や要望は面会時に聞き取るようにしているが、県外など遠方の家族も多いためLINEを活用している。苦情や相談については、契約時に重要事項説明書により説明しており、出された意見や要望については、速やかに職員会議で話し合い改善につなげるなど運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で職員の意見や提案を聞く機会がある。	職員の意見は朝夕の申し送り時や職員会議、休憩時間等、随時聞き取ることができており、出された意見や提案については、速やかに管理者及び事務局が改善に向けて協議を行い対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議で代表者に報告する機会があり、向上心がもてるよう整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員への声かけ、研修案内の回覧等でオンライン研修やその他の研修に取り組めるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	初任者研修等の研修を受ける際に同業者と交流する機会がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には入院先や自宅で面会し、本人や家族より日頃の様子を聞いたり、疑問点について答えるなどして安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時の様子や家族の不安・希望等に耳をかたむけながら、施設での生活に安心感を持っていただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の相談やアセスメント等で心配事や希望等を聞き、可能な限り家族や本人の意向に合う支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様は人生の先輩である、との考えを職員はもち、得意なことや生活の知恵などを教えていただくことで職員も学び支えあう関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の想いを受け止め、日々の生活の中でのできごとや気づいたことなどを共有することで、共に本人様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方は面会に来てくださっており、入所前からのかかりつけ医受診継続も途切れない支援に努めている。	これまでの人間関係や馴染みの場所についてを入居前に担当していたケアマネージャーや医療機関から情報を集めるほか、家族からの情報も踏まえ把握している。友人知人とは携帯電話や面会により交流を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格やその日の気分を把握し、トラブル等なく穏やかにかかわりあえるよう職員が調整役になって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先へ状態確認の連絡を入れたり、相談に応じるなどの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前のアセスメントや家族からの情報により、意向に近いものになるよう努めている。意思疎通が困難な方には、日頃の情報等から想いを汲み取るようにしている。	本人の思いや意向は日常会話や表情等から汲み取るほか、時にはどの洋服を着るかを選んでもらうなど本人の気持ちに寄り添った支援を行っている。新たに知り得た情報は連絡ノートに記録し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の面会時に話を聞くなどして、わかる範囲内でこれまでの暮らし方の把握に務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活パターンや前日の様子・夜間の状況などを把握することでその日の体調やできそうなことなども把握するよう務めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族や関係医療機関等の意見を聞き、職員からの随時の情報収集などで介護計画を作成している。毎月のモニタリング、6ヵ月ごとのアセスメントで計画の見直しをしているが、状態変化があれば随時計画の見直しをしている。	本人や家族の生活に対する意向を基に、カンファレンスやモニタリング評価、訪問看護師や薬剤師の意見も参考にしながら介護計画を作成している。家族とはこまめにLINEで要望を尋ね、意向に変化が見られた時や状態が変化した場合は適宜、計画の見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を個々の記録に残している。普段と違った言動等があれば記録し、連絡ノートにも記載して職員間で情報を共有、必要時は主治医へ相談するなどして、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に居住する家族、その時に都合の悪い家族へは状況に応じて病院受診同行も支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策のため、地域資源の活用ができていなかったが、今後は以前のように職場体験やボランティア受け入れで、いつもと違う雰囲気を楽しめるような支援をしていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診に加えて、病状によっては家族・主治医と連携して病状に合った医療機関受診を支援している。入所前からのかかりつけ医療機関受診も継続できるような支援をしている。	入居後もこれまでのかかりつけ医を受診できるよう、コロナ禍の現在は職員が受診を支援している。また、訪問診療や訪問看護を利用するなど、24時間の医療連携体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携により、週1回の健康観察を実施、必要時は訪問看護師と主治医が直接電話で話して病気の早期発見や治療につなげる支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人に関する情報を医療機関に提供している。病院相談員に入院中の状態確認等の情報交換、家族とも話し合いながら退院支援に務めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を入所時に提示・説明している。重度化が予測される場合は、早い段階で主治医から家族へ説明してもらい、家族とも話し合いながら事業所としてできることを支援している。	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」「意思確認書、同意書」を整備し、契約時に説明、同意を得るほか、入居後も思いの変化を汲み取れるよう状態変化を見極め、改めて説明を行っている。これまでに看取りの事例はあり、今後も関係者間で連携を図りながら支援していく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時についての勉強会を行っており、実際の急変時には医師や救急隊の指示に従って行うことができています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、その他それぞれの事業所で必要な訓練ができるよう準備中である。地域との協力体制はまだ不十分であるが今後は協力体制を築いていけるよう務める。	年2回、消防署立ち合いの下での訓練と自主訓練を実施するほか、大雨や積雪時の対応、また原発についても話し合い対策を立てている。BCPを策定しており今後は備蓄や備品を整備していく予定である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を理解し、プライバシーや尊厳を損なわないよう配慮しながら、声かけや対応をしている。	プライバシー保護や法令遵守等の研修会を実施し、さり気なくトイレ誘導を行ったり、小声で排泄の確認をするなど配慮している。また、個人カルテの保管場所や排泄チェック表の管理についても気を配るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の想いを伝えることができる方はその想いを尊重し、伝えることができない方は本人の情報等で確認しながら本人が決められることができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの生活パターンやその日の体調に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	園行事や外出時は、本人のお気に入りや着やすい衣類等を選んでもらえるような支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の膳が出ることもあり、時期には筍の皮をむいてもらうなど楽しみを持ってもらいながら準備をしている。	朝食はホームで調理するが昼食と夕食は法人の厨房より届くため、利用者に台拭きや筍の皮むき等の手伝いをもらっている。行事食に関しては栄養士が季節に合わせたメニューを計画し提供している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量を把握しており、その方に合った量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力のできる方には声かけをし、介助が必要な方にはその方に応じた方法で介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々のパターンを把握してトイレ誘導している。随時の水分補給をすすめたり、日中は可能な限りトイレでの排泄を促している。	終日おむつの方も日中はトイレ誘導を行うことで、気持ちのよい排泄を促すとともに、排泄補助具の使用削減につなげている。また、排泄や排泄ケアに関する内容をケアプランに組み込むことでケアの統一を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	処方されている緩下剤の内容を理解し、水分を多く摂るようすすめたり、歩ける方は歩いてもらうなどして自然な排便があるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴拒否が強い方にはうまく誘導できるよう配慮し、その日の入浴に気が進まない方には別にアプローチするなど個々にそった支援をしている。	入浴は週2～3回、午後3時から支援している。羞恥心への配慮から同性介助で対応したり、入浴したくないと言われた場合は無理強いにならないような声掛けにより入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの好みの場所でくつろいでいただいております、日中は居室で休んだり、ソファで過ごすなど利用者に合わせた状態で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や量の変更を全員で共有し、状態観察した結果は主治医へ伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格等を把握しており、できそうな作業をお願いしている。梅収穫の時期には梅シロップ作りの準備もお願いしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には介助を要する利用者も外へ出でいただいている。感染症対策をとりながらの病院受診も支援している。	コロナ禍以降、外出を控えている状況が続いており、外気浴としては近隣を散歩する程度に留まっている。個別には職員がお通夜に同行したり、受診の際の車窓からの眺めを楽しむ等されているが、外出頻度は少ないため、今後は感染状況を見ながら以前のように出かけられる機会を増やしたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる利用者は殆どおらず、お金を使う機会はない。物盗られ妄想のある方への配慮も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族と電話で話したりできている。利用者が書いた手紙は届く住所であるか確認してから投函するなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下の壁にはみんなで作った壁画や写真などを飾って季節感を感じていただいている。	フロアに空気清浄機を各ユニット毎に5台ずつ設置するほか、加湿器も備え空調を管理している。また、利用者が作った季節の作品や写真等を掲示することで季節感を出している。トイレは2か所あり、手すりの配置や介護スペースも十分確保されているため車椅子介助も問題なく行える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂には椅子やソファがあり、それぞれお気に入りの場所でくつろいだり、おしゃべりができたりするよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やベッドの位置は入所時に決めていただき、お気に入りの写真を飾ったりテレビを持ち込むなどして、その方らしい居室になるよう工夫している。	エアコン・電動ベッド、タンスが備え付けられており、自宅で布団を利用していた方については布団を用意するなど個々に合わせて対応している。また、塗り絵道具や裁縫道具等、自宅で使用していた馴染みの品を持ち込むなど居心地に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできること・わかることを把握しており、各居室には写真のついた札をかけるなどして自室がわかりやすいようにし、その日の気分にあった過ごし方ができるよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない